

東海第二原発「非常用電源」

冷却用海水ポンプの自動停止！！

——再稼働反対・運用期間延長反対・新規原発建設反対——

岸田政権は GX(グリーン・トランスフォーメーション)の中で原発を再評価し、“再稼働の推進” “廃炉の跡地に新規の次世代革新炉を建設” “炉の運用期間を 40 年から 60 年に(しかも停止期間は除くので 80 年になるかも)”と決定しました。(「GX 実施に向けた基本方針」を閣議決定 2023 年 2 月 10 日)

2011 年 3・11 福島第一原発の事故により高濃度の放射能でいまだ福島県のふるさとへ帰郷できない状況が続いています。子どもの甲状腺がん発症(疑い)の方が 338 人以上。田畑も耕作できず…原発事故は私たちの生活に取り返しのつかぬ状況を作り出していました。

「原発は安全です」という安全神話はウソでした。あれから 12 年、コロナ禍による世界的インフレ、追い討ちをかける形でのウクライナ戦争によってエネルギー危機が…この機に乗じての岸田政権の“原発回帰”。

12 年の間に電力の発送電分離も実現させず、新電力と既存電力会社との自由な競争環境もつくり、福島原発事故の責任も取らず、再生エネルギーへの転換もせず、21 世紀のエネルギー政策ビジョンも出し切れず“石炭火力発電と原発”にしがみついている。

東海第二原発“非常用電源冷却停止”2/21

首都圏から 100kmしかは離れていない東海第二原発は 3・11 で被災し、建設(1978 年)から 40 年たっているのに運用を 20 年間延長させました。老朽化もしており安全対策も十分ではありません。安全対策工事費(3500 億円)を銀行から借りられないほど経済的基盤も脆弱です。周辺に生活する 100 万人の住民も再稼働に反対しています。でも日本原電は 2024 年に再稼働しようと工事を進めています。



そのようななか、先日 2023 年 2 月 21 日 10 時 36 分東海第二原発の“非常用ディーゼル発電機の冷却海水ポンプ”が自動停止。

緊急事態なので日本原電は『運転上の制限の逸脱』と茨城県と原子力規制委員会に通報。“運転上の制限の逸脱”とは「この範囲で運転していれば十分に安全を確保できる設備の機能的な能力または性能水準を示したもの=運転上の制限」を満足していない状態のこと。全電源喪失したら福島第一原発と同じ大変な状況になってしまいます。

なのに原電は「直ちに安全上の重大な問題を生じていることを意味するものではありません」とのんきなものです。

何故停止したか原因は分からず、これから調査とのこと。原発の老朽化が心配されます。

東海第二原発の再稼働は絶対反対です。

脱原発で再生エネルギーの社会を作っていきましょう!

巨大地震がやってくる！

地震調査委員会、30年以内に茨城県沖でM7超の地震発生確率が80%と予測。(2019年2月発表)

でも...

近い！

古い！

逃げられない！

知っていますか
こんな

首都圏にある原発

それが茨城県の

東海第二原発

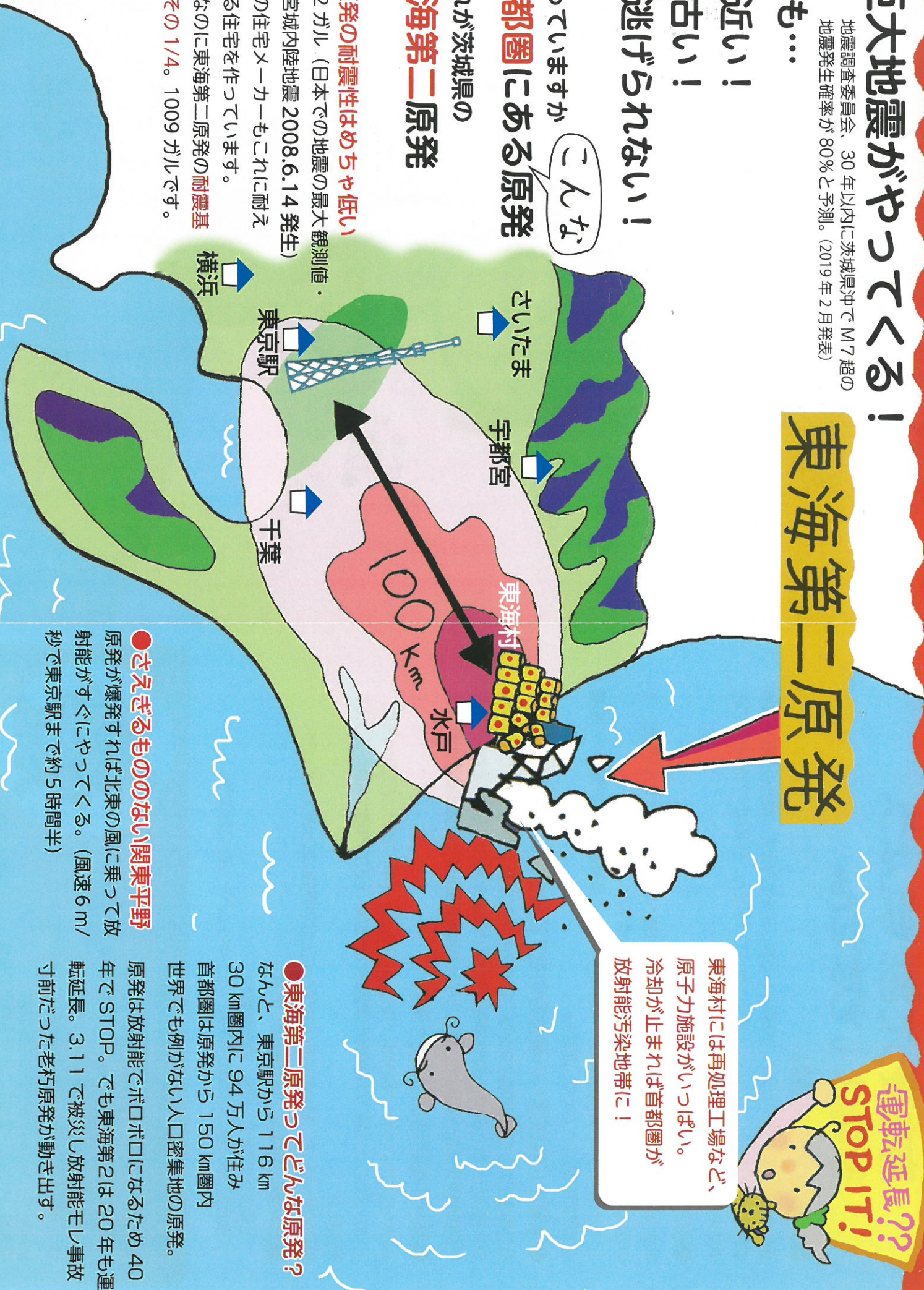
●原発の耐震性はめっちゃ低い

4022ガル (日本での地震の最大観測値・
岩手宮城内陸地震 2008.6.14 発生)

日本の住宅メーカーもこれに耐えられる住宅を作っています。

それなのに東海第二原発の耐震基準はその1/4。1009ガルです。

東海第二原発



●さえぎるものがない関東平野

原発が爆発すれば北東の風に乗って放射能がすぐにはやってくる。(風速6m/秒で東京駅まで約5時間半)

●東海第二原発ってどんな原発？

なんと、東京駅から116km
30km圏内に94万人が住み
首都圏は原発から150km圏内
世界でも例がない人口密集地の原発。

原発は放射能でボロボロになるため40年でもSTOP。でも東海第二は20年でも運転延長。3.11で被災し放射能モシ事故寸前だった老朽原発が動き出す。